

12/2深夜の津波注意報 太平洋沿岸各地で最大40cmの津波を観測

気象庁によりますと2日夜遅く、フィリピンのミンダナオ島付近を震源とするマグニチュード7.7の大きな地震がありました。震源の深さについて気象庁は不明だとしています。この地震で気象庁は宮古島・八重山地方や鹿児島県の奄美群島・トカラ列島伊豆諸島、小笠原諸島、それに九州から千葉県にかけての太平洋沿岸に津波注意報を発表しました。

明け方になって各地で津波が観測され、奄美大島・小湊で午前3時12分に20センチを観測したあと、伊豆諸島の八丈島・八重根で午前4時27分に最も高い40センチの津波を観測しました。また、鹿児島県や高知県、徳島県、和歌山県、三重県、静岡県、愛知県、千葉県、小笠原諸島などで数センチから20センチ程度の津波を観測しました。

その後潮位の変化が小さくなったことから、気象庁は午前7時に宮古島・八重山地方の津波注意報を解除し、午前9時にはそのほかの地域に出していた津波注意報をすべて解除しました。

気象庁はこのあと1日程度は多少の潮位の変化が続く可能性があるとして、念のため海岸には近づかないよう呼びかけています。

津波注意報について、東京大学の平田直名誉教授は「震源となったフィリピンのミンダナオ島付近はふだんから地震の多いところだ。津波は30センチの高さでも大人も動けなくなる。夜の暗い時間帯なので、海の様子を見に行くのは大変危険だ。海岸付近から離れてほしい」と述べました。

そのうえで「海外の離れた場所でも起き

フィリピンでは最大64センチの津波を観測 その後も地震

この地震でフィリピンの地震観測機関「火山地震研究所」は、ミンダナオ島の一部の地域で津波が発生するおそれがあるとして一時、海岸近くの住民に対し、高台など安全な場所に避難するよう呼びかけました。

研究所によりますと、これまでにいずれもミンダナオ島の▽南スリガオ州の離島で64センチ、南スリガオ州のビスリグで18センチ、東ダバオ州のマティで8センチの津波を観測したということだそうです。

震源に近い南スリガオ州の警察によりますと、現地では地震直後から停電が続いていて、多くの住民が公共施設などに避難しているということです。

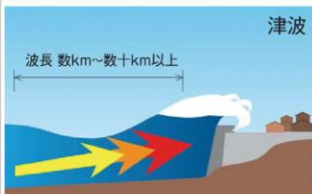
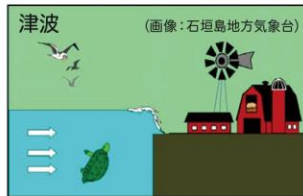
フィリピン当局は3日、この地震で北ダバオ州で妊婦1人が崩れた住宅の壁に挟まれて死亡したほか、あわせて4人がケガをしたと発表しました。

また、ミンダナオ島内の2つの橋が地震で損傷して通行止めとなっているほか、各地で停電が相次いだということです。

震源地付近では3日夜にもマグニチュード6.6の地震が発生するなど、地震が相次いでいて、フィリピン当局は住民に警戒を呼びかけています。

【津波とは(再確認)】

普通の波(波浪)は海上を吹く風によって発生した海水の表面部分の動きであるのに対し、津波は海底地盤の上下による海水全体の動きであるため、そのエネルギー(破壊力)は莫大なものとなる。



波浪の周期は数10秒程度だが、津波の周期は数10分にもなり、「押し」が長時間続くことで陸上の奥深くまで侵入したり、河川を数キロも逆流することがある。また、「引き」が長時間継続することから、津波にさらされると数キロの沖合まで流されてしまうことになる。

we support!

RQ 災害教育センター

MONTHLY

復興支援『すけさきた』

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である。

DECEMBER 11 2023

資料: NHKNEWS WEB、石垣島地方気象台(pdf「津波の基本知識」https://www.fma-net.go.jp/shigaki/pcasai/manual/pdf/ms.pdf)